

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (1/10)

資料 25-5

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
1. 開会	2007/9/24		前議長の突然の辞任に伴い暫定議長を務めていた Dr. Sisolefsky (ドイツ) が 9/21 に開かれた CISPR 総会で正式に議長に指名され議事を進行した。14 カ国、46 名の代表が出席。 議長が故富田氏と故 Prof. Nano が残した大きな功績を紹介の後、逝去を悼んで 1 分間の黙祷。
2. 議事次第の承認	文書：CISPR/B/436A/DA	・特にコメントなしで対応	2007-09-16 版の議題が紹介され承認された。 この版で、「9.1.7. グループ 1 機器に対する 1 GHz 以上の許容値設定」の議題が追加された。
3. IEC 中央事務局からの連絡事項			「IEC CO NEWS」という表題のプレゼンテーション資料により Dr. Rémy Baillif (IEC Technical Officer) が IEC の活動状況と最近の動きについて説明がなされた。 主要事項は次の 2 点である。 ・標準化でのシステムアプローチの重要性 ・特許権に対する IEC 政策
4. CISPR 総会 (CISPR/S) 審議結果			CISPR 議長は Mr. Kerry (英) が退任し、新議長に Mr. Heirman (米) が就任、各 SC の議長の選出状況などについて、総会の結果が議長より紹介された。
4.1. ISO/IEC 指令規格の中に複数の測定を規定している場合の“標準の方法またはサイト”の決定について	文書：CISPR/1145/DA Item 12. CISPR/1144/INF 運営委員会の審議結果を受けて、SC-B の立場を決定する。	・運営委員会 (CISPR/S) の審議の結果の把握を行い、必要な対応を行う。	・CISPR/S での下記結果の紹介が議長より行われた。 ① ISO/IEC 指令を修正提案することについて、CISPR/S としては保留とする。 ②しかし、すでに複数の試験法を導入している規格もあることから、CISPR/S の要請として、各 SC の所轄規格で ISO/IEC 指令の要求事項と不整合の規定がないか調査し、その結果を CISPR/S へ報告し、次回の CISPR/S 大阪会議で議論する。  ・この要請を受け SC-B では下記とされた。 ①CISPR11 の 4.1 版に規定している測定方法のリス

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (2/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
			トを SC-B 議長が作成し、CISPR/S に報告する。 ②、来年 2 月開催予定の WG1 会議にてその内容を検討する。 (ISPR11 第 5 版では複数の測定距離を導入するかどうかの問題があるので、この点についての議論も必要と思われる。)
5. ストックホルム会議議事録承認	文書：CISPR/B/409/RM	・特にコメントなしで対応	議事録案(CISPR/B/409/RM)に対して各国からのコメントがなかったため IEC 規則により正式議事録となった。
6. WG 1、WG2 メンバーリストの確認	文書：	・状況により対応	・Mr. Garrett (オーストラリア) が IEC1906 賞を受賞した旨の紹介がなされた。 ・新規メンバー確認(日本からは鉄谷氏)が行われた。 ・米代表から Mr K. Hall が最近亡くなったことが報告された。
7. 審議アイテム WG1 (工業、科学及び医療用無線周波装置の妨害波の許容値及び測定法) 関連			
7.1. CISPR11 のメンテナンスサイクル (MC)	文書：CISPR/B/385/MCR CISPR/B/386/CD CISPR/B/396A/CC CISPR/B/399/CD CISPR/B/410A/CC  ・第 5 版への FDIS 作業状況を確認する。	・左記の確認を行う。	・CISPR/B/435/CDV (CISPR11 第 5 版用) が承認された(賛成 16 カ国、反対 5 カ国) ことの紹介が議長より行われた。 ・第 5 版用 FDIS は、次回 SC-B 会議(大阪会議)の審議結果を踏まえて、2008 年 11 月までに投票に付すことの確認が行われた。
7.1.1. CISPR11 第 5 版 2nd CDV	文書：CISPR/B/418/CDV CISPR/B/432/RVC CISPR/B/435/CDV CISPR/B/438/INF CISPR/B/414/Q CISPR/B/425/RQ	・2nd CDV を支持する立場で対応する。	・2ndCDV に対する各国のコメント紹介が行われた。 ・2ndCDV に対する各国国内委員会(NC)からの類似コメントを 12 項目の審議課題として議長が整理し、FDIS 作成に向けての審議を行った。主な決定事項を下記する。 ①IH 調理器関連の NC からの提案は、第 5 版での検討

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (3/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	CISPR/B/431/INF <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1<sup>st</sup> CDV が否決された理由を討議する。</li> <li>・ 2<sup>nd</sup> CDV の投票結果を確認する。</li> <li>・ ITU の無線規則による ISM 機器にたいして 18GHz までの周波数に限定することを確認する。</li> </ul>		対象としない。 ②18 GHz から 400 GHz に対する要求事項を削除する提案は、採用する。第 5 版では 18GHz までの規定であるので、この規定は意味がないことが理由である。 ③継続生産、小規模あるいは個々生産の統計評価に関する規定を、IEC 61000-6-4 の該当節の規定に置換える提案の取扱は、技術課題として WG1 で検討する。 ④測定の不確かさを適合判定に織り込まない現行 CISPR11 の規定を、CISPR16-4-2 の規定に従い適合判定に織り込む規定に変更する提案については、技術課題として WG1 で検討する。
7.1.2. CISPR11 から法規制文言の削除を行い、CISPR11 第 5 版に導入条項と、付表 E を加える	文書：CISPR/B/416/CD CISPR/B/426A/CC CISPR/B/440/CDV Letter to ITU-R Sydney S green 15 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投票状況の確認を行う。</li> <li>・ ITU からの回答があれば確認する。</li> <li>・ NC からのコメントに対する回答を WG1 に付託する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本提案の文書 (B/416/CD) を支持する立場でコメントを提出している。この立場で対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ITU への手紙に対して、回答がないことの確認が行われた。</li> <li>・ CISPR/B/440/CDV の投票結果がまだ出ていないが、CDV が承認されれば、2008 年 2 月開催予定の WG1 会議にて FDIS への織り込みを検討することとした。</li> </ul>
7.1.3. 測定距離をクラスによる選択から、EUT サイズ (小さい機器を定義する) による選択への変更について	文書：CISPR/B/420/DC CISPR/B/428A/INF CISPR/B/433/MCR CISPR/B/434/CD <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B/434/CD (10 月 12 日 期限) の回付を確認する。</li> <li>・ NC からのコメントの解決を WG1 に課す。</li> <li>・ 3 m 測定距離を導入することに</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B/434/CD を支持する立場で対応するが、次の点についての情報を把握する。</li> <li>(1) 卓上タイプの「小さい機器」の定義の機器の高さ 1.5m に、試験台の高さを含めるべきか否か。</li> <li>(2) 3m の距離での測定を可能にする「小さい機器」の定義に当てはまる機器に対しても、近傍界の影響の確認あるいは、注意を払うべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NC に意見照会中であり具体的審議はなかった。</li> <li>・ CD に対する NC からの技術的なコメントについては、次回 WG1 (2008 年 2 月) で審議することとした。</li> <li>・ 大阪会議までに CDV が承認されれば、第 5 版の FDIS に織り込むことを大阪会議で検討することとした。</li> <li>・ 「小さい機器」の定義と「近傍界の考え方」について、非公式に WG1 convenor に確認したところ下記であった。</li> <li>(1) 「高さ」は、試験台を含む高さである</li> <li>(2) 「小さい機器」に対しての近傍界は想定していな</li> </ul>

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (4/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	<p>よる技術面, 及び非技術面のインパクト (得失) の討議を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 m測定距離を使用する条件の討議を行う。</li> </ul> <p>なお、小さい機器の定義を「大地面からの高さが 1.5m で、直径 1.2m の中にケーブルを含めて収まる卓上あるいは床置き型の機器」と表現している。</p>	<p>か否か。</p>	<p>い (上記主旨を明確にするために、会議後に日本から CD に対する編集上の修正意見を提出した。)</p>
<p>7.1.4. CISPR11の歴史と展開についての背景情報を附属書 (情報) とする提案の DC</p>	<p>文書：CISPR/B/417/DC CISPR/B/427/INF CISPR/B/4xy/INF*</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B/417/DCの完成度の評価を行う。</li> <li>・ B/417/DCの取扱, または代替の決定を行う。</li> <li>・ CISPR11の適用範囲の説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DC に対して基本的には賛成のコメントを提出している。この立場で対応する。</li> </ul>	<p>第 5 版の付表ではなく、参考文書 (INF) として発行することを決定した。 しかし、翌日の WG1 会議にて、IEC のホームページの EMC zone (<a href="http://www.iec.ch/zone/emc/">http://www.iec.ch/zone/emc/</a>) にて公開することの提案があり、この方法で行うこととなった。これは、この EMC zone は自由にアクセスでき、この文書の目的にかなっていることが理由である。</p>
<p>8. WG2 (架空送電線、高電圧機器と電気鉄道) 関連項目 議長は韓国の Dr. Ahn を WG2 の convenor 候補として紹介するとともに、志願者を募ったが応募者がなく、Dr. Ahn が convenor に決定。また、Dr. Ahn をサポートする co-convenor を募ったが、会議の場では応募がなかった。このことから、convenor をサポートするエキスパートをノミネートすることが、NC に対して要請された。</p>			
<p>8.1. 系統連系用インバータ機器 (GCPC)</p>	<p>文書：CISPR/B/423/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統連系インバータ機器の測定方法と許容値の提案を確認する。</li> <li>・ IEC/CISPR 61000-6-3 との関係性を討議する。</li> <li>・ 作業開始の適切なコースの決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品委員会の動きも無い文書であるので、規格化作業推進の立場で対応する。</li> <li>・ 日本から次の意思表示を行う。 (1) 日本から NP 提案を準備している</li> </ul>	<p>井上氏 (B グループ幹事) が太陽電池と燃料電池の系統連系用インバータの概要を紹介した。(WG2 では小玉氏が詳細説明) この結果、NP 提案を日本が行い、次回の大阪での SC-B 会議で NP に対しての投票結果の議論ができるようにすることが要請され、日本として引き受けた。</p>

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (5/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	を行う。	(提案内容を議長に事前送付する) (2)提案の概要を翌日開催の WG2 で紹介する	このインバータは家庭用を想定した提案内容だったので、SC-F のスコープにも関係する、また、IEC 製品委員会である TC-22 (UPS, PDS などの電力用電子機器), 82 (太陽電池)、105 (燃料電池) にも関係するとの意見が出され、これらの関係委員会にも NP を回付することが要請された。
8.2. CISPR18 のメンテナンス	文書：CISPR/B/359/DC CISPR/B/393/INF CISPR/B/424/INF  ・作業開始の討議を行う。	・作業開始推進の立場で対応する。	Dr. Ahn (韓国) がプロジェクトリーダーでメンテナンスを行うことになっていたが、まだ MCR が発行されていない。2007 年末頃までに MCR を発行し、具体的なメンテナンス作業を開始することを決定した。
9. 今後の作業 9.1. CISPR11 第 5 版のメンテナンスサイクル (MC)	文書：CISPR/B/385/MCR CISPR/B/435/CDV  ・CISPR11 第 5 版の次の MC の課題決定を行う。 ・MC と新 MRD (maintenance result date) の time frame の決定を行う。 ・B/435/CDV で提案されている MRD (2010 年) の確認を行う。	・状況を確認し、日本として対応の必要があれば、現地で対応する。	CISPR11 の 4.1 版は 2008 年 10 月まで有効。第 5 版に対しての修正は 2 回まで可能であるので、第 5 版の MRD (Maintenance Result date : メンテナンス完了日) を 20010 年から 2013 年に延ばすことを決定した。
9.1.1. 現行の CISPR11 で規定している対数平均法の代替法としての APD 法の導入	文書：CISPR/B/363/DC CISPR/B/373/INF CISPR/B/390/INF CISPR/B/402/DC CISPR/A/697/INF  ・日本からの APD の紹介を行う。 (電子レンジでの許容値と適合判	・電子レンジの 1GHz 以上の測定と適合判定に対して APD 法を適用した場合の考え方とデータについてのプレゼンテーションを、WG1 東京会議 (5 月) にて行っている。この内容をブラッシュアップしたプレゼンテーションを行い、電子レンジからの 1GHz 以上での妨害波測定方法	篠塚氏 (B グループ主任) が電子レンジの 1GHz 以上の代替試験法として APD 法を導入した場合の許容値の決め方などについて紹介した。審議の結果、APD 法の導入は、次の MC (メンテナンスサイクル) の課題として取り組むことが決定され、日本が中心となって推進することになった。

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (6/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	定の方法) ・ CISPR11 の次の MC での作業開始の決定を行う。 (適合判定試験の APD 法適用と APD 放射許容値の設定の指針) ・ CISPR/Aへの回答の確認を行う。	として採用している対数平均試験方法の代替試験法として、規格化作業開始の推進を図る。 ・ 日本提案に対しての各国の反応を把握する。	
9.1.2. 周波数 9 kHz～400 GHz での RF 妨害波を抑制する許容値と CISPR11 が対象とする周波数範囲に関して、CISPR11 の完全さへの質問	文書：CISPR/B/404/DC CISPR/B/411/INF CISPR/B/414/Q CISPR/B/425/RQ ・ ITU 無線規則 (CISPR/B/414/Q, Q2, 3を参照)に従い、ISM RF機器に対しての18 GHz ～ 400 GHzでの許容値設定作業の必要性について討議を行う。	・ B/404/DC に対して、18GHz までで十分とする日本の意見を提出している。 ・ この立場で対応し、各国の状況の把握に努める。	18GHz を超える周波数帯の許容値設定は当面見送り、ITU-R が関連の study question を完成させるまで (2010 年予定) 検討を行わないこととした。
9.1.3. 定格電流 1 相当たり 25A を超える安定化制御装置に対しての負荷端子許容値	文書：CISPR/B/362/DC CISPR/B/379/INF CISPR/B/410A/CC CISPR/B/4xy/INF* ・ 安定化制御装置の負荷端子への許容値を設定する作業を開始することの必要性についての討議を行う	・ B/362/DC に対して、許容値の設定の必要性はない、との立場で日本の意見を提出している。 ・ この立場で対応し、各国の状況の把握に努める。	提案元のスウェーデンに対して本件についての具体的な提案を要請したが回答がないことから、このテーマを取り上げることは、当面見送ることになった。
9.1.4. 400 MHz 未満で動作する ISM RF 機器に対して 1GHz を超える周波数で試験が必要になる条件 (CISPR/B/432/RVC, DE-17)	文書：CISPR/B/432/RVC ・ この要求に対しての作業開始必要有無の討議を行う。 (参考)	・ 作業の開始には賛成する。但し、具体的な事例の調査が必要と思われる。各国の状況の把握に努める。	下記を決定した。 ①次回 MC に織り込む。 ②WG1 の課題とし、CISPR22 を参考にして検討する。

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (7/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
	<p>現行 CISPR11 では、この対象機器に対して、“許容値は検討中”とし、Note にて具体的に試験が必要となる条件例を記載している。</p>		
<p>9.1.5. 床置き機器の 1 GHz を超える放射測定に対する CISPR 16 (自由空間) の規定</p>	<p>文書：CISPR/B/432/RVC CISPR/B/435/CDV CISPR/B/438/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CISPR11 第 5 版に対するの当面の解決策「床置き機器に対しては、大地面上で測定」を討議する。</li> <li>・ SC-B 自身による研究と調査について決定を行う。</li> <li>・ 今後の SC-A との共同作業についての討議</li> <li>・ 代替測定法に関して CISPR11 の内容評価一どのサイト、測定方法をカバーしているか？</li> <li>・ 代替サイトと測定法について、CISPR11 の対象を拡張する必要性があるか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況の把握に努め、Ad-hoc の編成などの具体的な提案などがあれば、状況により対応する。</li> </ul>	<p>下記を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2ndCDV での床置き機器に対して、1 GHz を超える周波数での大地面上 (<b>Free field</b>) で測定を行う規定は、CISPR 16-1-4 にしたがって、自由空間 (<b>Free space</b>) に戻して FDIS とする。</li> <li>・ 床置き機器に対するの解決策は、SC-A と相談して合意が得られれば、JTF (合同作業部会) を発足させて検討する。</li> </ul>
<p>9.1.6. 製品規格で使用するスペアナに関して</p>	<p>文書：CISPR/B/360/DC CISPR/B/377/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG1 からの推奨提案の審議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況をみて対応する。 (WG1 からは、「SC-A の結果待ち」との報告のみで、推奨提案はない、との情報あり。)</li> </ul>	<p>下記を決定した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① SC-A の結果 (<b>CISPR/A/764CD</b> : CISPR16-1-1 ed3.0 2007-12-14 期限) 待ちとする。</li> <li>② SC-B でも DC 文書として回付し、NC の意見を求める。 (12 月 7 日期限の文書 CISPR/B/445/DC が回付されている。)</li> </ol>
<p>9.1.7. グループ 1 機器に対する 1 GHz 以上の許容値設定につ</p>	<p>文書：CISPR 22 Ed. 5.2</p>		<p>周波数を拡大する明確な理由がないことから課題として取り上げることは見送ることを決定した。</p>

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (8/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
いて (現地追加議題)	1 GHz から 6 GHz のグループ 1 機器に対する許容値について ・ CISPR22の現行版での許容値を確認する ・ この許容値がCISPR11に織り込むことの必要性についての調査をWG1に課す		
9.1.8. 30 MHz までの周波数での磁界測定の一層的確性 (Further qualification)	文書：なし ・ 当面の CISPR11 第 5 版への解決策審議 ・ ISM RF 機器への許容値と方法の適用範囲の決定にあたっての基準“動作周波数”について審議 ・ SC-B 独自の研究と調査について審議 ・ SC-A との今後の共同作業について審議	・ 審議資料もなく、情報が不十分である。状況の把握につとめ、対応する。	次回の MC での課題とし検討するが、SC-A の協力が必要であるので、議長が SC-A の議長と調整を行い、SC-A と SC-B と協調した活動を行うための方策を考えることとした。
9.2. IEC 製品委員会との共同作業	CISPR11 第 5 版の次の MC の課題の決定		
9.2.1. 電気メスの動作状態での試験配置	文書：CISPR/B/431/INF CISPR/B/432/RVC ・ SC-62D との共同作業について決定 (SC-62D の MT 17 から代表が参加予定)	・ SC-62D との共同作業を行うことに賛成の立場で対応し、状況の把握に努める。	「電気メスの動作状態の許容値は検討中」の注記は削除し、SC-B 議長が SC-62D 議長に手紙を書いて協力要請し、MT17 と共同作業により、次回の MC にて動作状態での許容値の検討を行うことを決定した。 なお、Mr. Jeff Eggleston (SC62D MT17 の convenor) が電気メスからの電磁妨害波発生メカニズムについての紹介を行った。
9.2.2. PDS(可変速電気駆動システム)及び UPS(無停電電源装置)からの RF 妨害に対して	文書：CISPR/B/431/INF CISPR/B/432/RVC		・ Mr. Jean-Paul Beudet (フランス) から TC22 (電力用電子機器) /SC22G (PDS) /22H(UPS)での EMC 規格の状況紹介が行われた。



## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (9/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
の許容値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG1 の ad hoc の報告書受領</li> <li>・ TC22 との共同作業について決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況の把握に努め、対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この紹介の中で、CISPR11 のグループ 2 クラス A に対する許容値を採用しているが、グループ 1 クラス A の新しい許容値設定の検討のため、TC22 は、SC-B との JWG/JTF を編成して取り組む考えである、との紹介が行われ、SC-B も TC22 からのこの提案を受けることとした。</li> </ul>
9.2.3. TC26 と（電気溶接機）の共同作業	<p>文書：26/341/CDV 26/342/CDV CISPR/B/419/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 26/341/CDV, 及び 26/342/CDV についての最新のコメントの確認</li> <li>・ CISPR11 の次の MC での TC26 との共同作業とすべきアイテムの抽出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況の把握に努め、対応する。</li> </ul>	<p>TC26（電気溶接機）との協調状況の説明を議長が行った。TC26 WG5 (EMC) convenor (Mr Mair) が WG1 expert に参加し、良好な関係が築かれたことにより、2nd CDV (B/435/CDV) は TC26 に受け入れられる見通し。</p>
9.2.4. TC27（工業用電気加熱装置）との共同作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CISPR11 の次の MC での TC27 との共同作業とすべきアイテムの抽出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況の把握に努め、対応する。</li> </ul>	<p>議長から、TC27（工業用電気加熱装置）とは懸案事項がないことの説明が行われた。</p>
9.2.5. TC9（鉄道電気設備）とのリエゾン			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dr. T. Laine (TC9 の幹事補佐：フランス) から、TC9 での EMC 規格のメンテナンス状況に関して紹介が行われた。</li> <li>・ 議長から SC-B に対して TC9 MT62236 へ参加招請があったことが紹介された。</li> <li>・ WG2 会議では、川崎氏が IEC 62236（鉄道システムの EMC 規格）の概要と、TC9 における具体的なメンテナンス作業の内容を紹介した。</li> <li>・ 今後 EMC に関連する TC9 文書が発行された際には、IEC 中央事務局から SC-B 幹事に連絡がくるように、中央事務局の Dr. R. Baillif に要望することとした。これにより、SC-B からの TC9 の EMC 関連文書発行が確認できることになる。</li> </ul>

## シドニー会議 CISPR/B 結果報告案 (10/10)

審議項目	審議内容	わが国の対応	審議結果
9.3. CISPR 14-1 の適用範囲への IH 調理器の移動	<p>文書： CISPR/B/413/INF CISPR/B/430/INF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SC-F で回付された DC 文書 (CISPR/F/456/DC) の結果についての報告</li> <li>CISPR 14-1 での 30MHz 以上の周波数での IH 調理器の規定についての説明を行う。</li> </ul> <p>(参考) 30MHz ~ 300MHz の周波数で CISPR11 では電界強度の測定であるが、SC-F の DC 文書では現行の CISPR14-1 の対象機器には雑音電力の測定を規定している、として、IH 調理器にも雑音電力による測定を提案している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>F グループの日本意見は、現行の CISPR11 と同じ測定方法と許容値を CISPR14-1 でも採用することである。</li> <li>状況の把握に努める。</li> </ul>	IH調理器を CISPR14-1 の適用範囲に取り込む内容についての SC-F からの DC 文書 (CISPR/B/430/INF で SC-B にも回付) について、議長より説明が行われた。
10. IEC 中央事務局で記録されている CIS/B の作業プログラムの見直し	文書： CISPR/B/439A/PW*	内容把握する。	CISPR 11 関連のプロジェクトは順調に推移している。CISPR 18 の MCR が発行されることが期待されている旨、議長の発言があった。
11. その他		議題があれば、内容把握し、対応する。	提案はなかった。
12. 次回開催場所		大阪で開催することについての紹介を行う。	井上氏 (B グループ幹事) が大阪会議の開催予定場所、会期 2008 年 10 月 20~29 日、などの紹介を行った。
13. 閉会			